

こども通信

今年の2月はおかしな月でした。直前まで暖冬・小雪の予報でしたが、2月に入ったとたん厳冬・大雪になりました。

特に後半は降雪が1週間以上続きました。普段雪があまり降らない地域では、これだけ降れば災害級になることでしょう。

幸い当地の平場ではPCZ（日本海寒帯気団収束帯）の進路がそれと、北西の風が直接には当たらなかった。そのため極端な大雪にはならなかったようです。

しかし、各所では例年よりも大雪になっています。今後PCZの進路が当地を直撃することも考えておかないといけないでしょう。怖いことです。



最近よく言われることですが、日本の四季が変わり、春と秋が短く、冬と夏が長くなっています。それも極端な寒さや暑さ。

日本周囲に海水温の上昇が、こういった変化をもたらしているのでしょう。困ったことです。

* * *

昨年日本で生まれた子どもの数は72万988人。これは過去最少でした。前年より3万7643人の減少で、率では5.0%の減でした。

塚田こども医院
 小児科・アレルギー科
 漢方内科

 上越市栄町 2-2-25
 TEL 025-544-7777(代)
 025-544-7779(保育室)
 FAX 025-544-8456

 ホームページ
 www.kodomo-iin.com



感染症情報

インフルエンザの大流行は2月下旬でおおむね収束したようです。他の地域ではB型が流行しているとのこと。今後またぶり返してくるかもしれません。気をつけてください。

新型コロナウイルスは少ないながら、まだ流行しています。小児がかかり、家庭内で高齢者が発症することが多いようです。

マイコプラズマ感染症がまだ流行しています。熱と咳が主な症状です。専用の抗生剤が必要です。

感染性胃腸炎の発生が多いです。吐いたり下痢をしたりする感染症で、嘔吐が強いと脱水になることがあります。小さなお子さんでは注意が必要です。

RSウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症を時々見かけています。いずれも気管支炎を起こすウイルスで、繰り返しかかることがあります。

プール熱（アデノウイルスによる咽頭結膜熱）の患者が少しあります。**溶連菌感染症**も時々発生があります。いずれも喉の痛みが特徴です。溶連菌感染症には抗生剤が必要です。2、3日で症状は治りますが、合併症（リウマチ熱、急性腎炎）の予防のために10日ほど長く飲むことが求められています。

水痘が若干発生しています。2回のワクチン接種により軽く済んでいる印象です。

この数は「日本で」生まれた子どもの数で、「日本人だけ」の数は今後発表されますが、例年通りだとすると69万人前後。70万人を割ることになりそうです。

これはシヨッキングな数字です。少子化傾向が一層進んでいます。

婚姻数は一昨年在90年ぶりに50万組を割りました。昨年は若干の増加があったものの、49万9999組（一）に留まりました。

いつも言うことですが、少子化の原因は若年層の貧困化です。結婚しなくてもできない、子どもを持てない、持っても一人・・・

国の予算について、若い世代の収入増に繋がる議論はなされています。逆累進性の強い消費税こそ、議論の中心にあるべきだと思います。

少数与党になり、野党が一致すれば消費税の軽減はできるはずですが、一体どうしたことなのでしょう。

☆春の花粉症が急激にやってきました。昨年まで症状のあった方は、早めに準備をしてください。抗ヒスタミン剤は必須です。

予防接種

水痘ワクチン、他

水痘（水ぼうそう）は水痘ワクチンが定期接種になり、ずいぶん少なくなりました。と想像していたところ、小学生などで水痘のお子さんを見かけるようになりました。

水痘ワクチンは効果が弱く、2回接種しても水痘に罹患することがあります。しかし、この時には少しワクチンの免疫ができていたので、軽く済む傾向です。発疹も典型的な水痘にはならず、丘疹になることがあります。その数も少なく、2、3日で治ることが多いようです。

水痘ワクチン（日本でつくられた）は、元々は基礎疾患があり、水痘にかかると重症な状態になる子を対象に作られました。このために病原性をできるだけ弱くしてあります。ワクチンとしての効きも弱いということとです。

このため初めに2回接種することになったのですが、こういった方法は国際的にはまれになりました。今では初めに1回、時間を置いてもう

1回する方法が多くなりました（麻疹・風疹ワクチンと同様です）。（国は当初から方法の変更も考慮して2回の接種を「1回目、2回目」と記載しています）

水痘の大きな流行はなくなったので、当初の目的は達したと思います。小学生などの水痘を予防するために、接種方法の変更を考えていたのだと思います。

●帯状疱疹の増加

水痘児が著しく減少したことで、帯状疱疹になる高齢者が増えていきます。

帯状疱疹は、一度水痘になったあと、ウイルスのごく一部が神経の中に残っていて、何かのきっかけで再活性化し、体の表面に出てくるものです。再活性化が一番多いのは加齢による免疫力の低下です。

これまででは水痘の流行があり、水痘児と接触する機会が多くありました。この時に、水痘ウイルスに接触し、水痘になるほどではないけれど、体の免疫システムを刺激し、免疫が強まっていました。

水痘が極端に少なくなり、こうした自然の免疫増強の機会がなくなり、帯状疱疹になるものと考えられます。

帯状疱疹は、その神経の支配している領域のみに水疱ができます。その液の中には水痘ウイルスがたくさんいて、接触することで子どもに水痘を移してしまいます。しかし水痘とは違って、飛沫感染や空気感染しませんので、同じ部屋にいるだけでは移りません。

帯状疱疹はとても痛く、長く続くことがあります（帯状疱疹後神経痛）。気づかずに、脳梗塞の麻痺だと考え、適切な治療を受けられないことも。その痛みが良い治療法がないのが現状です。

●帯状疱疹ワクチン

このため、高齢者にもワクチン接種をし、帯状疱疹を予防しようとする動きが出ています。

65歳以上の方にワクチン接種をします。二つのワクチンが用意されています。一つは、子どもに使っている水痘ワクチンです（生ワクチン）。

1回の接種をします。

もう一つは「シングリックス」という不活化ワクチンで、2回接種します。料金は高いのですが、効果は十分にあると言われています。

今年4月から「定期接種」になり、補助が付きませんが、その額は自治体で違います（上越市は未定）。一部負担がありますが、ぜひワクチン接種を検討してください。

●子宮頸がん予防ワクチン

子宮頸がんがヒトパピローマウイルスの感染により起きています。その感染を予防するためにワクチン接種が行われています。

残念ながら日本では積極的な勧奨をしない時期がありました。副作用の問題がないことが分かり、積極的な勧奨をしたのですが、昨春秋、希望者が集中したことで、ワクチン不足が生じました。

キャッチアップの期間がこの3月いっぱいでしたが、それを1年間延長。1回でも本来の期間に接種している方は、来年3月末まで受けられるようになりました。